



石川県津幡町 資料提供

平成 28 年 8 月 9 日

町民福祉部健康こども課 児童センター

担当:山本 亜矢

☎076-288-3019

津幡町児童センター「南極クラス」

1. 概要・目的など

南極観測隊参加経験のある“南極先生”が全国で開催している出張授業。(文部科学省土曜学習応援プログラム)

未知の世界である南極での活動を伝えることで、子どもたちの好奇心や探究心をかき立て、夢や希望を与える。

(内容)

1. 南極の動物、オーロラなど大自然について映像で紹介
2. 南極の建物組み立て体験
3. 南極の自然に触れる体験(南極の氷、ブリザード、防寒着)

2. 開催日時・日程

8月25日(木) 13:30～15:15

3. 場所

津幡町児童センター他 (文化会館シグナス内にて)

4. 出席者

(講師)

講師:坂下大輔氏(北陸ミサワホーム)、手塚啓(ミサワホーム)、浅野智一(ミサワホーム)

(参加者)

津幡小学校校区学童保育「つばたっ子」「つばたっこピース」(3年生～5年生 35名)

一般募集者(小学3年生以上の児童)

5. その他 (注意事項など)

協力:ミサワホーム株式会社



主催:各学校生活協同組合・教育関連団体 他 / 協力:国立極地研究所 / 協賛:ミサワホーム

- 南極クラスとは
- 南極先生
- 活動ブログ
- 活動実績
- 南極リンク集
- お問い合わせ

南極クラスとは



南極クラスの様子

南極観測隊参加経験のあるスタッフによる「南極クラス」を全国で開催しています。

子どもたちにとって"未知の世界"である南極での活動を伝えることで、未来を背負う子どもたちに夢と希望を届けます。
また、限られた人数で支え合ってミッションをこなしていく南極隊員の経験を通して、チームワークの大切さを伝えていきます。

● 南極クラスの目的

以下のような目的で南極クラスを開催しています。

- 子どもの将来に夢を与えたい、希望を持ってもらいたい。
- 南極の動物、オーロラなど南極の大自然の画像を多くみせたい
- エコエネルギーの話、その他、環境エコに関することを伝えたい
- 仲間の大切さ、人と人が支えあっていくことの大切さを伝えたい



南極のオーロラ

● 南極クラスプログラム

【授業時間2コマ (45分+45分) での例】

- 南極はどこにある？
南極は日本からどのくらい離れていて、どのようにして行くのか。
荒海を越え、氷海を進む砕氷艦しらせの動画やスライドで説明
- 南極観測隊はどんな人たち？
観測担当、設備担当など、様々な職種の人がお互いに支えあっている。
観測隊の活動期間、それぞれの仕事の内容、役割などを説明
- 南極の自然は？
極寒の厳しい自然環境はどのようなものなのか。
マイナス35度でも息が白くならないことや、氷に閉じ込められた大気を説明
- なぜ、南極で観測するの？
南極での観測活動、研究の成果、地球温暖化、オゾンホール、オーロラ、隕石などについて説明
- 南極昭和基地ではどんな暮らしをしているの？
過酷な環境で隊員たちはどのように過ごしているのか
ブリザードの脅威、居室では半袖で過ごせることなど、隊員の生活を説明
- 質問タイム



南極クラスの授業風景

おすすめリンク

国立極地研究所

南極や北極での研究・観測活動を実施している機関です。

南極観測のホームページ

南極観測の最新情報を発信しています。昭和基地NOW!では観測隊の日常も覗くことができます。

南極の歩き方

南極を人、食べ物、建物などさまざまな視点から紹介しています。

南極ワンダー

ペンギン型ロボットと一緒に南極観測体験ツアーに参加しよう！

南極ウォークビュー

南極昭和基地を自由に歩き回って、越冬隊員のお仕事を体験しよう！

▶ お問い合わせ

南極クラスへのご意見、ご相談はこちら



● 南極観測について

世界30ヶ国以上の国が南極に観測基地を設け、南極隊員たちを派遣しています。日本も昭和基地を拠点として4つの基地を設営しています。

南極を知ることは、地球を知ること。地球の過去、現在、未来を知ること。

私たちの身近な"これから"を知ること。

南極は人間による局地的な汚染からもっとも離れた場所であることから、南極上空の大気成分は地球のありのままの成分を保持しているとも考えられており、南極の水と空気を調べることで、地球では現在どのようなことが起きているのか？地球の過去の環境や気候はどのような状態であったのか？またそれらの観測・分析することで、今後地球はどのようになるのか？など、地球の過去・現在・未来を知る研究を行っています。



昭和基地全体の航空写真

● 南極とミサワホーム

ミサワホームでは、1968年 第10居住棟の受注以来、現在までに35棟 5,500㎡の建物を供給してまいりました。

地球上で最も厳しい環境の一つである南極で、長年に亘る建物供給を通して技術開発に取り組み、その培った技術を国内の建物に活かしてきております。

また、日本南極地域観測隊には、ミサワホームグループから延べ13人が今までに参加しております。

現在も一人が第53次南極観測隊員として越冬中です。

また、今年度の第54次南極観測隊員として1名を国立極地研究所に推薦し現在訓練、健康診断を行っております。

彼らは、設営の専門家の隊員として活動を行いますが、限られた人数で隊員活動をこなすためには、各自の専門分野以外でも協力し合う事が求められます。全員で支えあうチームワークがとて大切で。



昭和基地全体の航空写真